

電友会四国連合会報

第 19 号

77. 7

目 次

電友会の皆様へ……………	高知電気通信部長……………	二	
四国の電信電話……………	四国電気通信局……………	二	
拡充計画について……………	文書広報課……………	二	
電退連総会開催……………		三	
電友会四国連合会理事会開催……………		三	
愛媛電友会役員会開催……………		四	
第八回を迎えた南予電友会総会……………		四	
春の叙勲について……………		四	
年金速報……………		四	
電気関係功労者の表彰……………		四	
表紙のことば……………		四	
特集……………	私の消夏法……………	五	
宇田 芳子……………	大島 唯且……………	伊野部重實……………	大野 正義……………
岡田 伝吉……………	香川浅太郎……………	国松小弥太……………	黒田 富一……………
佐藤 実……………	高橋 数一……………	竹島 一枝……………	田中 進……………
西山 政昭……………	西森 光陽……………	飛弾 直美……………	玉川 都夢……………
谷 信雄……………			
計 報……………			
随 筆……………	栗田 信雄……………	田中 義隆……………	
窪田 淳……………	藤田 基孝……………		
編集後記……………			
二……………	九……………	八……………	

電友会の皆様へ

高知電気通信部長

木下 光 一



今年五月のゴールデンウィークの一日、家族連れで山菜採りがてら、高知県下の物部村に、有澤一郎元高知電気通信部長の

殉職追悼慰霊碑をおとずれ、花を供えてきた。皆様ご記憶のことと思われますが、故有澤氏は、第一次五か年計画期間中の昭和三十一年六月三十日、伝送路拡充のための無線中継所敷地選定のため、現地の候補地を視察中、道路から車両もろとも転落、殉職されました。当時、氏には間もなく退職され、高知県副知事に就任が内定されていた矢先のこととて、公社内外から誠に惜しまれたと聞き及んでいます。

私自身、有澤氏とは直接面識はありませんが、現在東京に勤務されている御子息とは親しい間柄であり、碑を前にここから哀悼の意を表した次第であります。

いま現地を訪れてみますと、道路はすっかり良くなっております。以てを想像できない状況になっております。以前（約十五年前）四国通信局勤務のとき、高知・松山間の国道三三三号線が悪路で有名であったことも含め、管内の道路事情の大巾な改

善には、当時を知る者にとっては目を見はるものがあります。

事は道路のみならず、通信はさらに顕著であります。十五年前当時においても電話の新規架設は思うにまかせず、そのため有放が蔓延し、四国管内の電話十三万に対し、有放三十万と記憶しております。また市外通話についても手動式局が多く、外集による待時通話のそ通改善が進められておりました。

公社発足以来有澤先輩の尊い犠牲や先輩諸兄の引き続き御努力で公社事業も大巾に改善され、高知県下の状況でみて、加入電話の普及率は全国平均を大巾に上廻り、五十一年度末二九・八となっており、特に公衆電話については七・二で全国平均の約六・四に比し目立っています。また、「申し込めばすぐつく電話」についても高知局では二週間以内、その他の自動局では概ね一か月以内の滞留月数となっております。災害対策については、ケーブルの地下化、多ルート化、局舎等の防水対策等着々と進められてきており、その効果は昨年の十七号台風の際にも十分あらわれております。

今後は地域事情を勘案し、これらのより一層の改善に努めるとともに、収支の改善、地集の一般電話化等の過疎地対策、福祉電話の充実に引き続き努力していきたいと考えております。

これまで通信事業発展の推進力となられた会員の皆様に深く敬意を表し、また、日頃からの格別の御援助と御協力に感謝いたしますとともに、今後ともなにかと御指導をお願い申しあげる次第です。

先輩皆様方の愛読されるこの誌面に、拙稿を載せていただきますことは大変ありがたく光栄に存じます。

皆様方のますますの御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。

四国の電信電話

拡充計画について

四国電気通信局文書広報課

昭和五十二年度は第五次五か年計画の最終年度です。昭和五十二年度の拡充計画は「申し込めばすぐつく電話」の実現と電話の需給均衡に必要な設備を整備することを基本とし、さらに電信電話サービスの改善をはかることに重点をおいて策定されております。

◎一般加入電話

八四、〇〇〇（昨年度一〇〇、〇〇〇）

愛媛二九、〇〇〇

香川二二、〇〇〇

徳島一五、〇〇〇

高知一八、〇〇〇

五十二年度末には自動式局の電話は申し込んでからおおむね一か月以内に架設できるようにになります。なお五十二年度末の加入電話数は約一二五万加入、一〇〇人当り三〇・五加入（昨年度二八・五加入）の普及となる見込みです。また住宅用電話の占める割合は約六三％（昨年度六一・八％）になる予定です。

◎公衆電話

プッシュ式一〇〇円公衆電話五五〇個、

街頭公衆電話一〇〇〇個など、終日利用可能な公衆電話を中心に一六〇〇個（昨年一五七五個）を増設します。これにより五十二年度末の公衆電話数は約二六二〇〇個となり、一〇〇〇人当り六・四個（昨年度六・〇個）の普及となります。

◎ P B X

公社設置を希望されるものにはすべて応じることとし内線電話機二〇〇〇個（昨年度四五〇〇個）の販売を見込んでいます。

◎ テレックス

二一〇個を販売します。

（昨年度二六〇個）

◎ プッシュホン

九三〇〇個を販売します。

（昨年度八〇〇〇個）

◎ ホームテレホン・ビジネスホン・親子電話

五二二〇〇個を販売します。

（昨年度四五四〇〇個）

◎ キャッチホン

一六〇〇個を販売します。

（昨年度一〇〇〇個）

◎ 電話ファックス

一〇〇〇個を販売します。

（昨年度一〇〇〇個）

◎ データ通信

販売在庫管理システムサーブス三五端末（昨年度三〇）、科学技術計算システムサーブス一〇端末（昨年度一〇）を販売します。

◎ ポケットベル

三五〇〇個を販売します。

（昨年度四九〇〇個）

◎ ダイヤル化

五十二年度中にダイヤル化する委託局は次のとおりです。

愛媛 予子林、串、魚成、城川、高川、遊子谷、御旗、奥南（八局）

香川 高見島、佐柳、志々島、五名、多和（五局）

徳島 清水、一字、西祖谷、東祖谷、阿南伊島（五局）

高知 仁淀、長者、橘、松原、十和、十川、口屋内、古満目、母島（九局）

以上の結果、四国のダイヤル化率は九・七%となる見込みであります。なお香川県は、四国のトップをきってダイヤル化率一〇〇%となります。

◎ 送 路

松山、高松間などのマイクロウェーブ回線の工事を実施します。

電 退 連 総 会 開 催

電電公社退職者団体連合会の第八回総会が去る三月四日東京都千代田区東商ビルスカイルームにおいて開催され、当会から泉会長が出席した。

総会においては、昭和五十一年度事業報告、収支決算および昭和五十二年度事業計画、収支予算の審議を行なった。

なお、電退連の法人化問題については検討の結果当分見送ることとなった。

昭和五十二年度事業計画

本会は会員相互の連絡親交を密にし、電電公社退職者の生活の安定、福祉の増進を図り、あわせて電信電話事業に寄与せんとする会の目的達成のため、本年度においては特に下記

施策の推進を図るものとする。

一 恩給・共済年金受給者の処遇改善に関し、前年度に引き続き関係方面に陳情運動を展開する。これが為必要あるときは僚友団体と緊密な連絡をとる。

二 共済年金が上薄下厚的に改正されるに伴い年金額改訂通知書には、その計算の基礎となっている俸給の額を記載するよう要望する。

三 恩給・共済年金受給者が支給機関から要求される戸籍に関する証明について地方自治体が条例等により無料で証明している場合は当該証明書をもって足りるよう改善方を要望する。

四 生存者叙勲の範囲拡大について要望する。

五 現行医療共済制度の下では、部内医療機関のない地域ではその恩恵に浴し難いので、この救済案につき引き続き検討する。

△ 電友会四国連合会理事会開催

昭和五十一年度第四回理事会を去る三月三十日四国電気通信局別棟会議室で開催し、会務運営につき左記事項を協議した。なお議事にはいる前、新任の工藤通信局長からあいさつと公衆電気通信法の改正に至るまでに払われた会員各位の側面的なご協力に感謝申し上げるとのお言葉があった。

一 会務報告及び昭和五十一年度収支概算報告について

二 昭和五十二年度収支見込について

三 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

四 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

五 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

六 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

七 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

八 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

九 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十一 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十二 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十三 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十四 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十五 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十六 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十七 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十八 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

十九 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十一 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十二 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十三 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十四 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十五 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十六 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

二十七 昭和五十二年度共済年金の改善方向について

四 昭和五十二年総会の開催について

松山市一番町、四国電気通信局別棟四階
大会議室において十月二十八日(金曜日)
午後二時に開催することとなった。

△ 愛媛電友会役員会開催

昭和五十二年第二回役員会を去る四月二十五日午後五時三十分より電気通信共済会四国支部会議室において開催し、次の事項について審議を行なった。

一 会務報告(五十一年十月から五十二年三月まで)及び五十二年度会費収納状況について

二 五十二年度収支見込について

三 五十三年度収支見込について

四 第十六回総会の開催について

十月二十九日(土曜日)午前十時ホテル奥道後において開催することに決定。

五 事務担当者の委嘱について

△ 第八回を迎えた南予電友会総会

故玉井利満さんが病床で、谷脇市太郎氏と私に向って「南予電友会総会をはじめて第七回の総会を迎えておりながらこんな体になり出席できないのは残念であるが、お二人の力でどうか開催してくれ。そして八回、九回と絶えることなく総会を続けてほしい」と云われたのは昨日のように思うが早一ケ年の歳月が流れてしまいました。

故人の遺志を受継いで、今年も去る五月七日、宇和島市の三島会館で第八回南予電友会総会を開催したところ五十七名の会員のうち三十二名の出席があり、賑やかな一日となり

ました。

地元宇和島報話局よりは、ご多忙中にもかかわらず富山局長をはじめ話運課長、庶務課長、庶務係長のご出席があり、公社の現状ならびに宇和島の電話状況等について詳しく説明をしていただき、そのうえ宇和島、御荘、宇和、八幡浜、大洲の各局長より格別のご援助をいただき、退職後までも我々に対してご配慮いただく電電公社のご厚情にただただ感激するばかりでした。

またこの席に故玉井利満氏夫人も特にご来席下さって故人の生前に対する親交に感謝の言葉があり、さらに大正十年頃宇和島局の交換をしていた方々がこの会に共鳴され九名もの多数が出席して下さったことは主催者として誠に光栄であり厚くお礼申し上げる次第であります。

またこれから後も玉井さんのご遺志を継いでこの会をいつまでも続けてゆくことを誓い、不肖私に世話人代表の指名がありお引受けすることと致しました。微力ではありますがこの会の永続と発展に努力致す所存であります。何卒皆様のご協力とご援助をお願いする次第でございます。

(愛媛電友会南予地区代表 大森 勇)

春の叙勲について

昭和五十二年春の叙勲に左記の方々が多年にわたり電信電話事業に貢献された功績により叙勲の栄に浴されました。私共一同心からお喜び申し上げます。

勲三等旭日中綬章 羽藤榮市殿(今治)
勲七等宝冠章 岡崎花子殿(高知)

○ 年 金 速 報

昭和五十二年度の恩給・共済年金改訂については政府案通り衆・参両院を全会一致で通過し、恩給については四月三十日法律第二十六号で公布され、共済年金についても目下法律の公布手続中です。(五月三十一日)

従って公務員給与の改善に伴う恩給・共済年金の増額措置は四月から、その他の新規改善措置は八月から実施されることとなりましたが精算支給は九月期支給となる予定です。

○ 電気関係功労者の表彰

去る三月二十五日の電灯九九周年電気記念日に満八十才以上の電気関係功労者として次の方々へ、社団法人日本電気協会から感謝状および記念品(大木盃)が贈られました。またことにおめでとうございます。

片岡 時正殿(高知)
川村 重威殿(佐川)
仙石 菊馬殿(高知)
三津山勘三郎殿(松山)
山口 常次郎殿(大洲)

表紙のことば

童 心 莊野 丹秀(内海)

げんごろとおたまじゃくしを画て見ました。私の子供のころは小川の流れがうつくしくおたまじゃくしをすくってビンのなかに入れ川魚でもとったような気持ちになって友達と夕焼雲が消えるまで遊んだものでした。

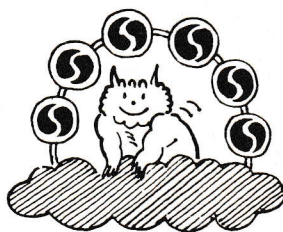
特 集

私の

消夏法

健康で長生きしましょう

宇田 芳子(高知)



明治の末期に産湯を使ってこの世に生を受けた私。人一倍暑がりやの寒がりやですが、去年の冬はお蔭様で医者の門をくぐらずに越しましたが、むし暑い夏になったら夏ばてをどう防ごうかと今から気をもんでおります。健康法という程の事でもありませんが、自分の好きな物を食べ、好きな趣味を生かすことにしています。目下のところ花を造ることに人形造りが私の性にあってるので精を出しています。

昔から老いは足からと云われますので、歩くこと、身体を動かすこと、食事でも高価なものを食べないで新鮮な野菜食、寝る前と起きた時は十分間ぐらい軽い体操、今日一日を元気で頑張ろうと自分に言い聞かすことにしています。

退職してからはや九年を過ぎました。電友会の総会、春の懇親会、忘年会、女子むつみ会にと欠かさず出席し、よき友との出合に倅せを感じ話に花を咲かせ、老を忘れて楽しい一日をすごす事も健康の賜でしょう。来月は北海道行きを計画しています。八月一日、二

日と今年は剣山に避暑登山をします。旅行も好きで時折り気のあった友達を誘い遊びに行き思い出にしています。会員のみなさま、お互に健康で長生きいたしましょう。

贅肉追放

大島 唯且(徳島)

桜の花が散り、新緑の候となり、暖かさが暑さになり、太陽の季節ともなると、脳出血や交通事故をやった私は汗に弱くなり、自然と運動不足になりがちで贅肉がつき困ったと思っていたら、昨年、夏バテにやられ、遂に九月に入院の憂目に遇いました。それで、今年の夏は、まず、三度の食事は茶碗一杯ぎりの飯で、野菜をなるべく多く採り、毎日軽い体操と、午前と午後約一時間散歩して気分をさわやかにし、睡眠を十分採り、血圧ならびに体重の管理をしながら過したいと思っています。

暑さ凌ぎ

伊野部重實(高知)

襖一つ取除けば、たちまちぶっ通しの部屋になってしまふような田舎式の、隙間だらけのわが家では、エヤコン、クーラーなどの近代的施設はおよそ不適応、それに、年寄り世帯の節約ムードも手伝って、恥しながら防暑設備は全々整っていません。

従って、時たま、古くからの扇風機を動かしては、少しばかり暑さに抵抗してみるものの、すべて古式通り、暑さに順応するか、又こらえるかなければならんことになってい

ます。

そこで、比較的底が長く差出た旧式のわが家では、木蔭の冷風になぞらえて、夏の間中は、殆ど外見にこだわらず、雨戸はおろか襖も障子も、昼夜明けっ放しにして、出来る限り自然の風浴をと願っている次第です。それから、昼間、ほどよく汗を流した暑仕事の後、風呂上りの一杯で、陶然と酒中の愉悦に浸っている間、チョッピリ暑さを忘れた境地になれるので、これ暑さ凌ぎの良策と心得ています。

私の夏の過ごし方

大野 正義(松山)

夏は避暑地へ、冬は暖い所へなどというようなことの出来る身分ではない。暑さも寒さもじっと耐えて良い時候になるのを待つ、それが私の過しかたである。

蒼海に机を向けて裸かな 北見北鈴
夏は裸になることだ。パンツ一つになって家の中の風の道をみつけて、風の無い日は仕方がないから扇風機の風に吹かれて寝ころがってれば天国である。

熱き茶をふくみつつ暑に堪えてをり

高浜虚子

暑いからといって冷たいものを飲み過ぎないように、寝冷えをしないように気をつけよう。

老には老の適度の運動も必要である。今年の子供達と一緒に朝の涼しい間の、ラジオ体操をやろうと思っはいるがどうなることであらう。

しかし夏には夏の、暑ければ暑いで句の材

料のあることが有難い。

石ころは炎ゆる外なき極暑来ぬ

河村吐鬼彦

片陰無し電柱の影さへ拾ふ

大野 峰生

自然に従って

岡田 伝吉(徳島)

幼年の頃から釣を趣味としておりましたが長じてからは大ざるの碁を楽しんでおります。何れも退職された駅長さんの釣と校長さんの碁の挑戦を交互にやっております。年を取ってからの碁は中々上達しませんが、釣の方は土地勘のある駅長さんの案内で昨年は大量の成果を得ました。自転車ですからボラと鯊位です。好天に恵まれた朝早くペダルを踏んで目的地に向って走る気持は素晴らしい爽快さを感じます。他は空地で野菜づくりと鉢植の手入や、桃柿の果実の成果を楽しんでおります。

こんな工合で特に消夏法というような事はなく、自然のままにすごしております。このように収入相應の生活を樂しむ事が出来たのも偏に通信養成所入りを私に勧めてくださった方のお蔭であり、さらには電電公社のおかげであると只々感謝申し上げる次第です。

わが心に鞭うつ

香川浅太郎(丸亀)

古言に「心頭を滅すれば火もまた涼し」とか言われておりますが、なるべくこのような心構えを持つようにしております。

少しは製鉄工やボーイラーマン等のことも考

えて体を引き締めておかねばなりません。

夏は目もくらむような猛暑ですから、海水浴あるいは樹蔭に涼を求めるのも結構ですが、室内においても比較的涼しい部屋で、それに風でも入ればなお更よいでしょう。

それにしても夕暮れ時の讃岐の夕風はやりきれません。これも心の持ちようで少しは何とかなるのではないのでしょうか。そして一風呂浴びて冷たい飲物でもうのおすと又生気をとり戻すでしょう。

夏 雑 感

国松小弥太(松山)

夏が来ると思うことは灼熱の太陽の大海に山にまた各種スポーツに若者は外に向ってエネルギーを発散し、まさに若者の夏という印象を強くする。

お互い若い時代の体験を思い出すこととおもうが、人生もはや六〇の半ばに達した今日では毎年めぐり来るこの夏をどう過ごすか、どう体調を整え健康を維持していくか、現実

に立ち向うことだけを考えるようになった。私の場合退職して二度目の夏になるが勤めていたときと生活のリズムが変わってきたので現状に即した健康法を考えている。年令を重ねるごとに体力の衰えが目に見えるので日ごろ健康体を自負していても気持と身体が平衡しない。体力の限界を見きわめ疲労を翌日に持ち越さないことを第一にしている。以上の点から消極的ではあるが派手な運動をさけ永続きする軽い運動と併せて趣味を延ばし、ごく平凡ではあるが次のことを実施して健康維持につとめ、この夏を過ごしたいと考えている。

- 1 早寝早起(睡眠時間は七、八時間とる)
- 2 毎朝のラジオ体操
- 3 週二回一時間程度の散歩、同上ゴルフ練習
- 4 庭木・盆栽・菜園等の手入れ
- 5 月一回ハイキング(日帰り)、夏期中に小旅行(一泊二日程度)

我が家の消夏法

黒田 富一(宇和島)

昔、現在のソウルに居た頃、宿直勤務の夜食に味噌うどんというのがあった。中国語でジャジャメントか云ったが字は忘れた。中国製味噌にひき肉を入れ、ドロドロしたのをこれも中国製のめんにかけたもので汁気は全くない。夜半過ぎの空腹を美味しく満たし、翌朝は元氣モリモリだった。現在の中華料理店には見かけないようだが、我が家では夏のスタミナ食にこれを真似たのを作っている。中国味噌は得られないから普通の味噌でやる。今や家の代表料理格となり、長男一家に引継がれている。

夏はとかく食欲が衰えがちとなる。身体がダルクでは一汗流したあとの涼風も、ビール

の醍醐味もあつたものではなからう。

それから夏の衣生活で発見したことがある。たしかテレビかなんかで今のヤングがやっているのを真似たものである。Yシャツでも半袖でも現役当時は、まるでそうしなければならぬかのように下にランニングかクレープを着込んだものであるが、定年後は家に居るときはこれをやめてズカに着てみると、これが意外に大変涼しいのである。

シャワーで汗を流そう

佐藤 実(志度)

最近、クーラーの普及で夏はクーラーと共に！が人情ですが、やはり夏らしい風情を楽しみたいものです。そこでわが家では涼しい環境づくり、健康な体力づくりをやっています。家の中の通風をよくするため、部屋の模様替え、夏必要でない家具は物置きに格納し自然の風を通りやすく、又窓辺に観葉植物を置き散水すると暑気をやわらげてくれる。

体力づくりとして一日二回程度汗をかいています。幸い犬を飼っているので一日二回犬の運動で裏山をかけ廻ってびっしょり汗をかきます。シャワーで汗を流したあとは実に爽快な気分です。

とにかく夏は暑いものですから、自然の風、緑、水を上手に利用すること、適当な運動をして汗をかくことを実行して、少しでも暑い夏を涼しく過したいものです。

加茂川通い

高橋 数一(西条)

若い時から低血圧気味の私は、夏が来ると体の調子が悪くなる。過去において何回か入院の経験があるが、考えてみると、それはいつも暑い時ばかりであった。

しかし、私は夏が好きである。その理由の一つに、何よりも楽しみとする釣りができるということがある。冬だつてできないこともないが、遠く出かけて強い寒風にさらされながらする磯釣りなどは、もはや老齢の体力では堪えられないし、また経済的なゆとりもない。

い。そこで、近くの加茂川でアユを釣るのが、それは最高の楽しみである。

伊予の青石で有名な加茂川は、石も美しいが流れも清れつである。近年アユが激減して、釣果はいつも貧しいが、それでも楽しい。日に二度三度行ったりする。暑さに弱い私だが、その悦びがどうやら私の健康の支えとなっているようである。

汗

竹島 一枝(南国)

老化が進んで来ると朝が早くなる。安眠の邪魔をするのでそつと飛行場へ行く日課がはじまる。誰もいない。間もなく太陽が顔を出す。雲雀が鳴く。朝焼が美しい。空気がすばらしく旨い。少し駆けてみる。汗ばむ。正に初夏である。

退職の三十六年は早ひと昔。先輩、同僚、後輩の皆様に支えられ今日まで生きた。

幼かった孫達も成長して私の作物を褒める御世辞がなかなか上手になった。

今日もまた元氣を出して田圃を耕して汗を流そう。

蒔き終へて背伸の彼方若葉萌ゆ

老ひし葉も色どりそろへ杜祠すがし

わかっちゃいるけれど

田中 進(伊予)

生れつきの苦勞性、たまの日曜日も朝早くからゴソゴソ動きまわるので女房には煙たがられている。

おかげで、よく飲み、よく食べ、よくねむれるので無病息災、夏バテを心配したこともない。

ない。

風呂あがりの一杯のビールで昼間のあつさを忘れ、木枯しの吹く冬の宵、おでんやのコップ酒に生き甲斐を感じ、明日への活力が躍動する。

ガソリンのくいすぎで維持費の嵩むボンコツ車であるが、我が家になくはならない原付二輪車？……………

「女房いわく」……………新車に買い替えることもできないので、オーバーホールしてガソリン代を節約するようにしたら、もっと長持ちするワよ、といわれている。

夏はこうして

西山 政昭(高知)

私には消夏法なんかありませんが、元氣なお蔭で、毎年冷凍機の運転に、六・七・八・九月と電電公社へ勤めております。云えばこれが私の消夏法かも知れません。

私の消夏法

西森 光陽(佐川)

今は昔、出張から帰ってみると、机の前に直径一メートルほどの爆弾の穴があいていた。程なくして、広島へ出張中に被爆した同僚のお通夜。そして終戦の玉音放送だった。

よし、之で自分の都会生活は終わった。帰えりなん、いさふるさどへ！

故郷で老父母を見送ってから、先祖伝来の持ち山へ造林を初めた。

夏が来ると、その山に這入って、早く大きくなれよ、と鎌をふるう。山の空気は中々うまい。七めんど臭い対人関係もない。コン

コンと湧く岩清水をくむ頭上を、かすめるように通る千切れ雲をぬって、名も知らぬ鳥が飛び交う。

日に依つては日照りが強く、山川草木悉くが寝静まっているような時がある。本当に良い題材だなー、と魅せられ、ああでもない、こうでもない頭をひねっている時、ことりとも庭木動かぬ暑さかな」と云う古人の句が脳裡をかすめる。流石に名句だなー、所詮足元へも寄りつけない。やめっちゃよけになる。

夕陽が傾きかけた頃、スタスタと家路につく。泡の吹く奴をひっかけて、庭木に打ち水をしながら、あの山も、この山も、息子たちの建材になるのは、もうあと一息だ、頑張らなくっちゃアー、と云う気魄で夏を過すこと三十ヶ年。そのお蔭でか今日まで、病氣らしい病氣をした覚えがない。

此の頃、各地の老人会にまねかれて「五十、六十は花なら蕾、七十、八十は花盛り」と唄うのを良く耳にする。要は気魄だ、頑張りだ。逞しいファイトでもって、美しい花を咲かせて余生を飾りたい。

私の健康法

飛驒 直美（脇町）

春夏秋冬、四季を通じて欠かさぬ私の「たわし健康法」。

朝晩欠がさず、頭から足の先まで全身を「たわし」でマッサージすることによって血行を良くし、老化に抵抗し若さを保ち、四季を通じて風邪ひとつひかない。

そして毎日を大切にして、元気で明るく楽しい余生を過している昨今です。

健康こそ最高の倖せ

玉川 都夢（松山）

私に今何が関心事であるかと問われれば、それは健康だと答えるでしょう。また何が尊いかと言われれば即座に健康と答えるでしょう。元気で還暦を迎えて早六歳。古稀への坂を登りつつある私にとって日々の健康こそまったく有難くこれに越す倖せはないと感謝しています。公社在職中はじめて現場機関へ転出し、僅か二カ月で急性肝炎に罹り約三カ月間死線を彷徨った私にはその時健康の有難さを十分に思い知らされました。以後今日まで健康保持こそ自分に与えられた最大の責務と肝に命じて過しています。

公社を卒業し第二の職場でも、また現在の第三の職場でもお蔭で至極健康です。月二回医院で血圧や心臓その他を診て貰っています。取り立てて言うことはないと言われている。自身の健康に決して過信をせず年々を考えず不摂生は厳に慎む毎日です。

就寝午後十時、起床午前五時、しばらく俳誌等の拾い読み。六時半から約一時間石手河畔の速歩（一分間約一三〇歩）、少々汗の出る速さです。途中自己流のラジオ体操十五分、脈搏は一分間一二〇を越さないことに気をつけています。（心臓に負担のかからないため）一汗かいて河畔の木蔭で上半身を拭く朝の気持は素晴らしく今日一日の健康を約束するよう感じます。

会員のみなさん、元気でこの夏をがんばろうではありませんか。

健康管理は自分で

谷 信雄（高松）

私方では、夏といっても特別な健康維持の方法はとっておりません。四季を通じて毎日毎日を疲労をためないこと。また人間の体も新品自動車と古自動車の差と同じように、古くなるにつれ故障が多くなるのは当然でありましょう。

自分の体力にあわせて仕事をし、ちょっとした故障でも早目早目に治療して大きな故障にならないようにして、できるだけ長く使えるように心がけております。

いづれにせよ、自分の体は自分が一番よくわかるのであるから、自分で自分の健康管理に努めることとしております。

計 報

次の方々が亡くなりました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	行年	所属
藤原 勲殿	52・2・23	七十二	高松
富田吉之助殿	52・2・26	八〇	松山
藤本松太郎殿	52・4・7	八四	高松
藤田 滝末殿	52・4・11	七〇	松山
高橋林次郎殿	52・5・31	六九	松山



随

筆

こどもの美しさ

栗田 信雄 (松山)

四月某日、城山を下りていると小学二年の男の子が拇指大のスカンポをさし出して「おじいさんこれ食べんと」という

「そんなもの食べたら腹が痛うなるぞ」

「そんなことない、塩をつけて食べたらどうもない。僕もいんで塩をつけて食べるんよ」

「そうかい、それならせっかくだからもらって帰って、塩をつけて食べてみようか」

「そう、それならこれ」といかに満足したように、うれしげに手渡してくれる。

またつれの一人は

「僕はおばあさんが餅をこしらえるので葉をとっていんであげるんよ」とサンキライの葉十枚ほどをいかに大事そうに持っている。

やがて二人は駆け下り交通止めの針金の下をぐりぬけたところでふりむき

「おじいさん、さようなら」と声高らかにさけび手をふりながら去る。

わたくしはそのなんでもないような二人の行動に心をうたれたのである。これをどう表現してよいか、心余りてことば足らずであるが、あえて云えば、天然の美、はだかの美、とてもいえるのであるまいか。それは純真で

すなおで、なにの飾りもないこどもの体内から発散される美の極致といってもけっしていいすぎではないと思うのである。

そのスカンポは花瓶の中ですすくと伸びて行く。

古稀まで

田中 義隆 (松山)

劇作家の中野実氏は、自作の「明日の幸福」演出手直しのため、初日の新橋演舞場へ上きげんで出かけて観劇中、突然倒れた。体を支える人の腕の中でいびきをかき、医者がきたときはもう人事不省だったという。(永井竜男氏著「身辺すぐろく」所載)

これはうらやましいが、無職の身にはまねられない。そこで晩酌で酔って寝て、そのまますうっと逝くことができれば、さぞよからう。金の切れ目が命の切れ目だから、長患いをして金の苦労を見たくない。

電友会事務室で玉川さんと雑談していて、安楽死ができるなら長生きしなくてもよい、と口がすべった。すると玉川さんは、「七十から年金が上がるから、それまで生きておらぬと損ですよ」と、まじめに注意してくださった。

「ではついでに、愛媛電友会から古稀のお祝いを頂戴しましょうか」といって大笑いをした。古稀まで、まだ五年ある。

松山城を訪ねて (一)

窪田 淳 (松山)

松山城の東側(ロープウェイ側)は、築城当初から藩の重臣が居住していた。慶長の昔、こ

の城を築いた加藤嘉明は「東郭」に重臣河村権七を住ませ、蒲生忠知のときには老臣本山豊前、松平氏になってからは、はじめ奥平氏、つづいて水野氏など家老の邸宅となった。東雲学園の敷地は「東郭」の跡だったわけである。したがって、この方面に城主が通行する正規の通路があったはずはない。

さて城主が日常の生活を営んだのは城西の「二の丸」であり「三の丸」であった。いまだにお殿様が天守閣に住んでいたように思っている人もあるが、とんでもないことである。そんな不便なことができるわけがない。「二の丸」の跡は現在の城東中学である。それはともかくとして「二の丸」に接続するのが城の内の「三の丸」であった。この一郭に「三の丸」が新築されたのは貞享四年、松平定直(四代藩主)のときで、藩主の屋敷となった。国立松山病院の敷地がその跡である。堀の内の他所はそれぞれ中堅家臣団の屋敷に割り当てられていた。

「三の丸」から城下に出るのは堀之内の北門を経て「札の辻」を通過する。因みに「札の辻」のことについて「三の丸、城の戌亥の角に制札場あり、札の辻という。諸方道法はより定むる也」と記録にある。

◎土州高知へ、陸路二五里半三八間(約九九、二〇八KM)

◎阿州徳島へ、陸路四五里二町三七間(約一七七、〇〇〇KM) 船路七四里半六町

(約二九三、二一六KM)

◎讃州高松へ、陸路三七里半一〇町一五間

(約一四八、三九〇KM) 船路四〇里半一二町(約一六〇、三五二KM)

などとするされている。これによって「札の辻」が松山から各方面に向う起点だったことが判る。つまり「札の辻」から堀の内の北門に入り「三の丸」「二の丸」を結んでさらに「本丸」を目指す方角に松山城の正規の通路がなくてはならないわけである。現在県議会議事堂と県警本部の間を北に向って通り抜ける道がある。もともとこの道は県警本部の敷地も含めて「二の丸」を囲む内濠だった。だから城東中学の石垣は直下が深い濠となっており「亀の淵」とも呼ばれている。

(つづく)

蝦夷の旅 (四)

藤田 基孝 (松山)

旅に出てから半月は過ぎた。北見の国川湯の宿で蝸の声に目覚め、団体客の出たあと美幌行のバスに乗る。屈斜路湖畔の砂湯と和琴で少憩後、霧深き原生林を蛇行して美幌峠に着く。眼下に全容を見せる屈斜路湖は蒼蒼と繁る丸き中島を湖の中央に浮べ初夏の光に静まる。民族衣装を着飾りしアイヌ一家は峠の客に媚びつつ被写体となりて銭儲けをして居るが私は只で二、三枚撮った。

峠の山に咲くチシマフウロウ、ミヤマオダマキ等の中に暫く遊びて下山し、白樺林を一直線に過ぎて、エゾイソツツジが白々と咲く硫黄山に着く。白髪のアイヌ翁の売る硫黄山の噴気で茹でし卵を貪り食い摩周湖に向う。二百メートルもの高さ絶壁に囲まれ人を寄せつけぬ摩周湖は藍色の湖面に豆粒の様な神居島を一つ浮べるのみで余りにも凄く寂しき湖である。屋台で買った焼鳥を喰り夕刻

弟子屈の保養所に寛ぎ、鮭鱺の焼物、鳥賊の刺身で老身を養い、静かな街にも出て見る。

翌十八日はマリモの沈む阿寒湖に向う。道端に咲くリラの花を愛でつつ釧路に向う。途中丹頂鶴の自然公園に小憩、大楽毛という面白き名の町を過ぎて雨の釧路市に入る。

保養のため釧路職員クラブに二日滞在し、二十日の朝は根室に行くべく鈍行に乗る。途中厚岸に下車して国泰寺に詣り、先住民の遺跡である牡蠣島を探索。

此の日折り悪しく国鉄のストに会い、列車は間引きされて五時間を空費した。漸く着いた根室の街は既に夕靄に沈み、駅前の店には釜から揚げられし真赤な花咲蟹が湯気を立てて匂って居た。食堂にて遅き夕餉を済ませてからYHに入る。

根室の街は大通でも人は少ない。納沙布峠行のバスは一本の立木もない草原を走り四十分で峠に着く。白き灯台の下を磯に降りて私はその巖頭に立った。足元の岩盤に白く書かれし「北方領土を返せ」の文字は私の心を痛く打ったが、その文字も既に薄れ、過ぎし三十年の空白がひどく哀れに思われた。

双眼鏡にうつる北方領土の島々は水平線上に平らに並び霞んで見える。最も近いのが水晶島、その向うに志登島あり、両島共高き鉄塔のあるのはソ連の監視処であろうか。

肉眼で見える貝殻灯台周辺には日本の漁船が黒胡麻の様に群りて居り、あれより先へ漁に行けぬのかと思えば、漁師ならずとも心の底に煮え滾る怒りを覚え、敗戦日本の哀れさが沁々と感ぜられ、不覚にも出し涙をそっと拭うのであった。

(つづく)

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 八月一日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

△速報のとおり五十二年度の年金改訂は五月二十七日参議院本会議で政府案通り通過成立しました。支給事務は六月支給期に間に合わず九月支給で精算されることになる見込です。恩給・共済年金の改訂実施時期の四月実現は一応達成しましたものの、現職公務員等の給与改訂に比べるとお一年の遅れがあり、これをなんとかしてもらいたいものです。

△次号会報は秋深まる十月一日の発行を予定しております。秋草に鳴く虫の声の風情もまた一入です。秋の香りのただよう原稿をお待しています。ご協力をおねがいます。

△愛媛電友会の事務を毛利さんに替り青野栄さんが手伝われることになりました。これからはどちらか一人はいつも事務所に居ります。お気軽にお立寄り下さい。

(玉川記)

電友会四国連合会会報 第一九号

昭和五二年七月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(〒七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六二二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社